

BASF プリンス®粒剤

■種類名：フィプロニル粒剤
 ■有効成分：フィプロニル----- 1.0%
 ■PRTR法指定物質：フィプロニル [第1種] ----- 1.0%
 ®=BASF社の登録商標

■登録番号：第22760号 (BASFジャパン登録)
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
 ■登録初年：2010.08.04
 ■性状：類白色細粒
 ■有効年限：5年
 ■包装：1kg×12袋
 10kg×1袋 (3年)

【特長】

- 円柱状の新製剤にリニューアルし、各種散布機での散布調整がより容易になった。
- 幅広い殺虫スペクトラムを有しており、育苗箱施用で主要水稻害虫を長期間防除する。
- 薬害安全性が高く、は種前、は種時から移植当日まで使用できる。
- キャベツ、ブロッコリーの育苗期間中のハイマダラノメイガに高い効果を示す。

【適用内容】 (2016年10月末日現在)

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フィプロニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	ウンカ類 イナゴ類 イネミズゾウムシ イネドロオイムシ イネツトムシ ニカメイチュウ イネヒメハモグリバエ コブノメイガ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5㍓) 1箱当り50g	は種前	1回	育苗箱の床土に均一に混和する。 育苗箱の上から均一に散布する。	1回
	フタオビコヤガ イネクロカメムシ		は種時 (覆土前) ～移植当日			
	イネシンガレセンチュウ		は種時 (覆土前)			
	イネアザミウマ		移植3日前 ～移植当日			
	イネカラバエ		移植当日			
キャベツ	ハイマダラノメイガ	0.2g/株 (但し、50g/m ² まで)	地床育苗期	1回	株元散布	3回以内 (定植前の 処理は1回 以内、定植 後の散布は 2回以内)
	ハイマダラノメイガ コナガ	セル成型育苗ト レイ1箱または ペーパーポット 1冊(30×60cm、 使用土壌 約3～4㍓) 当り20～30g	は種前		本剤の所定量をセル成型育 苗トレイまたはペーパーポットの 床土に均一に混和する。	
	は種時		本剤の所定量をセル成型育 苗トレイまたはペーパーポットの 覆土に均一に混和する。			
ブロッコ リー	ハイマダラノメイガ	セル成型育苗ト レイ1箱または ペーパーポット 1冊(30×60cm、 使用土壌 約3～4㍓) 当り20～30g	は種時 ～定植前	本剤の所定量をセル成型育 苗トレイまたはペーパーポットの 床土に均一に混和する。		
			は種前	本剤の所定量をセル成型育 苗トレイまたはペーパーポットの 覆土に均一に混和する。		
きく	アザミウマ類	6kg/10a	定植前		植溝土壌混和	5回以内

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- 育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機にかけて移植すること。
- 軟弱徒長苗、むれ苗、移植時期を過ぎた苗などには薬害を生じやすいので、注意すること。
- は種時覆土前散布及びは種前床土混和の場合、低温で生育抑制を生じる恐れがあるので、温度管理に注意すること。
- 本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じやすいので、代かきは丁寧に行い、移植後に田面が露出しないよう注意すること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 本剤による中毒に対しては、動物実験でフェノバルビタール製剤の投与が有効であると報告されている。
- ❖ かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- ❖ 魚毒性等：1) 水稲(箱育苗)に使用する場合は、次の事項に注意すること。
水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。
- 2) 畑地(苗地床)に使用する場合は、次の事項に注意すること。
水産動植物(魚類、甲殻類)に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- ❖ 保管：密封し、火気をさけ、食品と区別して、直射日光の当たらない冷涼な場所に保管すること。